

☆泉ゼミ進級論文・卒業論文執筆要項 2006☆

○作成上の注意

- ・テーマの適否は論文作成に決定的な意味を持っている。なぜそのテーマを選ぶのか、自分の問題意識をまず明確にする。
- ・問題意識がどんなに適切であっても、テーマが大きすぎたり、難しすぎたり、資料が入手不可能だったりしては、論文として完成することはできない。適宜、教員や先輩などによく相談すること。
- ・適切なテーマには、ほとんど例外なく研究の蓄積がある。テーマに関する論文や著書を狩猟し、そこに言及、引用されている文献にも注目すること。
- ・論文構成の整合性は重要である。序論 → 本論（数章） → 結論という構成を明確にすること。序論では、問題意識、テーマの限定、仮定等を明記すること。結論では、論文全体を総括し、序論の問題提起にどう答えたか、残された課題は何かをはっきりのべる。
- ・文章は、簡潔そして平明に。主語と述語を意識すること。重要な用語は定義を明確にすること。自己流の新語は基本的に使用しない。
- ・注（脚注とも言う）には、（1）本文を補足し説明する、（2）出典を示す、の二種類がある。（2）については後述を参照すること。
- ・書式等、わからないことがあれば、今年の論文集を参考にするのも良い。ゼミ HP (<http://izumi-seminar.net/>) の「ゼミ生ログイン」（ユーザー名とパスワードを打ち込む）に入った後、フォルダー「Seminar_2005」の中に「2005 年度泉ゼミ論文集」があるので、それをダウンロード。ただし、書式が間違っている論文もあるので注意すること。

○用紙等：必ずワードを使用してパソコンで作成する。A4 用紙（横書き）を用いて、余白はワード標準の上 35 ミリ、下左右 30 ミリ。1 枚の字数も標準の 40 字×36 行。

○論文の提出：**A4 用紙に印字したもの（1 部）と、データファイルをセットにして 12 月 25 日（月）までに提出。**データファイルに関してはメール（izumir@isc.senshu-u.ac.jp）での提出も可。

○論文の書き方

構成：①表題紙、②目次（卒論のみ）、③本文、④注、⑤付録、⑥参考文献目録

- ・表題紙：題目、学籍番号、氏名
- ・目次：本文の構成など何がどこにあるかを一目瞭然とする
- ・本文：1 章から始まり、最終章まで章立てをする。各章がいくつかの節や、各節がいくつかの項に分かれる。下記以外の書き方はしないこと！

1.	はじめに	→	1 章のこと
2.	ゲゼルの自由貨幣論	→	2 章のこと
3. 1.	シルビオ・ゲゼルの略歴	→	3 章 1 節のこと
3. 2. 1	シルビオ・ゲゼルの経済理論	→	3 章 1 節 2 項のこと

- ・注：例えば、本文の主題と関係はあるが、本文の議論の展開にとっては直接関係がないような事柄を読者に知らせたい場合や、参照してほしい場合にも用いられる。注の番号は、(1)から一連の番号を用いる（ワードでは自動作成してくれる：「挿入」→「参照」→「脚注」）。
- ・本文中の図表に関しては、すべて**連番（図 1，図 2，表 1）**で番号をつける。

- ・付録：付録がある場合は、注の後に載せる。注として入れるのは長すぎる場合に用いる。図表でも良い。
- ・参考文献目録：論文の最後におく。本文や注に用いられた引用（参照）文献の他に、議論の参考としたものをここにおさめる。

○引用の仕方（絶対他人の文章を断りなく本文中に入れないこと！著作権法違反です。）

- ・引用文と論文執筆者自身の文とをはっきり区別するようにする。そのための方法として、①引用文には「
」を付す方法、②地の文から切り離し改行して1段マスを下げて記す方法、③文頭に引用者を持つてくる方法、④文末に引用者を持つてくる方法などがある。

- ① 「・・・・・・・・（泉[2000:25]）」
- ② 改行・・・・・・・・（泉[2000:25]）。改行
- ③ 泉[2000:25]によれば、・・・・・・・・。
- ④ ・・・・・・・・（泉[2000:25]）。

- ・「
」をつけて引用を示す場合に、その引用文中にすでに「
」が使われている場合、引用文中の「
」は『
』に変える。

- ・引用文の途中を省略する場合は、・・・を使用するか、（中略）を用いる。

- ・引用文の最後には、必ず引用先を記すこと。著者名・発行年・ページ数の順。例えば、

アルデンヌ高原の町セント・ヴィート(St.-Vith)に生まれた (Popescu[1997:257])。

そのうち3分の1だけが再発行にまわされることになった (泉[2000:25])。

つまり、**著者名[出版年]** または **著者名[出版年:ページ数]** という形で示す。翻訳の場合は、二種類の発行年を「=」でつなぐ。著者名については、姓のみを示すことを基本とし、同一の姓のものがある場合に限り姓名の両方を表記する。

Gorer [1965=1986]によれば、…

藤田真理子[1988]は…と論じているが、他方藤田英典[1991]は…

…ではないだろうか (藤田[1995:231])。

…という議論を展開している (久野他[1994], Knuth [1992=1993:13], 福島編[1995], Boorstin [1973:177=1976:206])。

○参考文献目録の書き方

【一般原則】

文献は本文や注の中では個別に行わず、**著者名のアルファベット順**にしたがって文末で一括に配列する。

[1]邦文単行書

[例]

東條由紀彦 (1990) 『製糸同盟の女工登録制度：日本近代の変容と女工の「人格」』 東京大学出版会。

橋本徹・大森彌(編) (1994) 『過疎地域のルネッサンス』 ぎょうせい。

・**著者名_ (出版年)_ 『書名』 出版社.** の順。(スペースを入れる箇所に注意、以下同じ)

・(編) (監)および(出版年)の部分に使用する"(括弧)"は、必ず半角にすること。半角括弧()と全角括弧()の違いに注意。

- ・「,」「,」などは用いない。最後に「.」をつける。
- ・著者名の姓と名の上にスペースなどは入れない。
- ・著者が複数いる場合は、「・」で区切って表す。著者が3名以上いる場合は、(他)などで適宜略記することも可。
- ・編者・監修者などの場合は、(編)や(監)で表す。
- ・書名の副題を示す場合は、「:」(全角)で区切って表す。(半角の場合は、:となるので注意。)

[2]邦文論文

[例]

米谷匡史 (1994) 「丸山真男の日本批判」『現代思想』22(1):136-161.

田村祐一郎 (1984) 「簡易保険の史的展開(1)」『所報』(生命保険文化研究所)68:1-39.

藤田隆則 (1995) 「古典音楽伝承の共同体：能における保存命令と変化の創出」福島真人(編)『身体の構築学』ひつじ書房,357-413.

・著者名_(出版年)_「論文名」『誌名』巻(号):ページ数. の順。

- ・「所収」などは書かない。
- ・「巻」「号」などは表さず、数字と括弧のみで示す。その後に、「:」をつけた上で所収ページ数を示す。
- ・紀要などで、発行元が題名のみではわかりにくいと思われる場合は書名のあとに括弧で発行元を示す。
- ・その他、基本的に邦文単行書の場合と同様に示す。

[3]欧文単行書

[例]

FitzGerald, Frances (1986) *Cities on a Hill: A Journey through Contemporary Cultures*, New York: Simon and Schuster.

Clifford, James and George E. Marcus (ed.) (1986) *Writing Culture: The Poetics and Politics of Ethnography*, Berkeley and Los Angeles: University of California Press.

Kirp, David L. and Ronald Bayer (ed.) (1992) *AIDS in the Industrialized Democracies*, New Brunswick: Rutgers University Press.

Bellah, Robert N. et al. (1985) *Habits of the Heart*, Berkeley: University of California Press.

- ・Family name, _Given name_(出版年)_書名(イタリックにする),_出版地:出版社. の順にする。
- ・書名の後に「,」。最後に「.」をつける。
- ・著者名は、姓, 名 の順で示す。著者が複数いる場合は、最初の著者のみ姓, 名 の順で示す。著者が3名以上いる場合は、et_al. で略記することも可。
- ・基本的に、著者名を示す際に Kirp,D. のようなファーストネームの省略はしない。
- ・編者は(ed.)で示す。
- ・書名は斜体で示す。
- ・書名の副題を示す場合は、「:」(半角)で区切って表す。

[4]欧文論文

[例]

Hofflander, Alfred E. (1966) "The Human Life Value: A Historical Perspective," *Journal of Risk and Insurance*, 33(3):381-391.

Bloch, Maurice (1992) "What Goes without Saying: The Conceptualization of Zafimaniry Society," in Adam Kuper (ed.), *Conceptualizing Society*, London and New York: Routledge, 127-146.

・Family name, Given name (出版年) "論文名" 雑誌名(イタリックにする), (巻)号:ページ数. の順。

・論文名は引用符で区切る。その際、最後のコンマを引用符の中に入れる。

・単行書に所収の場合、「in」を付す。

・その他、基本的に欧文単行書の場合と同様に示す。

[5]翻訳単行書

[例]

Gorer, Geoffrey (1965) *Death, Grief, and Mourning in Contemporary Britain*, London: Cresset Press. =(1986) 宇都宮輝夫(訳)『死と悲しみの社会学』ヨルダン社.

・欧文単行書の挙示のあとに、_(発行年)_訳者姓名(訳)『翻訳書名』出版社. の順。

[6]翻訳論文

[例]

Connolly, William E. (1993) "Beyond Good and Evil: The Ethical Sensibility of Michel Foucault," *Political Theory*, 21(3). =(1994) 杉田敦(訳)「善悪の彼岸：ミシェル・フーコーの倫理的感性」『思想』846:85-112.

・欧文論文の挙示のあとに、_(出版年)_訳者姓名(訳)「論文名」『誌名』(巻)号:ページ数. の順。

・原論文のページ数が不明の場合は、省略できる。

[7]ホームページ

[例]

泉留維 (2005) 「泉研究室」 <http://izumi-seminar.net/> (2006年6月27日確認).

・作者 (不明な場合は HP 管理者 (団体) 名)、作成年 (不明な場合は割愛)、タイトル、URL、閲覧日の順。

○字数など

2 年次ゼミ進級論文：6,000 字以上 (図表・参考文献目録・付録を除く)、テーマは自分の住んでいる地域・実家周辺に関すること。

3 年次ゼミ進級論文：8,000 字以上 (図表・参考文献目録・付録を除く)、テーマは自由

4 年次卒業論文：15,000 字程度 (図表・参考文献目録・付録を除く)、テーマは自由

☆執筆要項を遵守していない論文は、論集を作成する時に大変編集に困りますので、基本的には一切受理しません。書式等についてわからないことがあれば、締切直前ではなく早めに聞きに来ること。